

## グローバル人材を目指す前に 知っておきたいこと



⑩



「得意なもの突き詰めてほしい」と話す本田取締役会長

＝県立大佐世保校(山下哲嗣撮影)

本田商會取締役会長

ほんだ ふみあき  
本田 文昭氏(76)

工業用の各種高圧ガスをはじめ、ドライアイスの製造販売、宅配すしの運営などを手掛けている。いわば「総合商社」だ。佐世保市で船員を取り扱う会社の長崎支店として始まり、今年で創業104年を迎えた。

佐世保は昔、小さな漁村だった。うちの会社も佐世保が「本家」だ。ここに島原や佐賀などから、ひともうけしようとして入り込んできた。さまざまに事業家を輩出し、県内で

# 自分自身をブランド化

も伸びている企業が多い。ハングリー精神があったから。「ラベリング」という言葉を知らずして、名刺を差し出したとき、相手が有名企業に属しているかどうかで、即座にその人を評価してしまうことだ。それは違う。どんな有名大学卒だろうが、

学歴は関係ない。彼らに負けない度胸と気力があれば必ず勝てる。見えや恥ずかしい気持ちばかりを持っているは伸びない。自分の考えを主張する若いエネルギーが求められている。

労働を商品に置き換えた時、高い給料で働くためには自分自身をブランド化しないといけない。知らないのは自分だけかもしれない。

企業にはピンからキリまである。考えてほしいのが、「鶏口牛後」ということわざだ。牛になっても尻尾でいるより鶏の頭、またネズミの頭でもいい。ヘッドになれば、目もあって耳もある。自分のやりたいことができる。だからこそ、得意なものを突き詰めてほしい。パソコンでも大工でもいい。一国一城のあるじを目指すべきだ。

その上で、できれば地元で働いてもらいたい。都会で満員電車で揺られるよりも、給料は少ないかもしれないが、ゆっくりと暮らせる。両親の面倒を見ることも大事だ。地元にもいい会社はたくさんある。小さな企業でも、皆さんほどの能力があれば必ず、ヘッド(社長)になれる。リーダーとして引っ張りながら、豊かな人生を送ってほしい。

次回(後藤洋平)は25日に掲載します